

技術士への道 Vol.13

2012/6/11

H23 水産部門(必須科目) レビュー

1、問題

近年、漁業・漁村を舞台として、人と人、人と社会の有機的なつながりを取り戻そうという動きが、漁村と消費者の双方から芽生えようとしている。こうした漁業・漁村で現れつつある新たな動きは、漁業・漁村の6次産業化とも言われている。

このような動きも見られる我が国の水産業の現状を分析し、6次産業化を進める上での技術的課題を答案用紙1枚に列挙せよ。次に「漁業及び増養殖」、「水産加工」、「水産土木」、「水産水域環境」の中から2分野を選択し、それぞれの分野で今後必要とされる技術的解決策について、あなたの考えを分野ごとにそれぞれ答案用紙1枚に論述せよ。

2、回答

1) 考察

近年の農林水産業関係では、6次産業化がトピックとして新聞紙上でも話題になっているところである。

6次産業化とは、一言で表現すると「生産から加工、流通販売まで一貫して生産者が取り組むことである。これは、今まで大手バイヤーに価格決定権を握られて、サプライヤーが買い叩きに合い収益を確保できないため、この一連の流れに自ら参画し、所得と雇用の確保を図ること。また、この他これまで活用されて来なかった地域資源を、新たな産業創出に結びつけ、1次～3次産業と融合すること」などを示す。

ここはあまり、難しく考えず、どうやって農家の手取りを増やすかを考えればいいと思う。

6次産業化の課題を、「水産基本計画」から抽出すると

- ① 漁業者又は漁協等生産者団体による加工・販売体制の構築→漁業収益の悪化の一因として大手量販店等とのミスマッチが原因で買い叩き等が増加→自ら生産から加工流通に至るシステムが構築できないのがボトルネック
- ② 食品産業等、他産業と連携した新商品の開発、販売拡大の取組→関連団体とのマッチング機会が少ないのでボトルネック。
- ③ 未利用水産資源を活用した新事業の創出→バイオマス等の新たな資源活用への取組がなされていないのがボトルネック、
- ④ 漁村において6次産業化を根付かせるための計画づくりや生産・加工・販売のための施設整備等の促進→ハード部門の支援体制が出来ていないのがボトルネック。
- ⑤ 漁獲物の加工・販売の活動において中心となって取り組む漁村の女性の活動の促進→女性が就業できる場の提供がまだ少ないのがボトルネック。

2)骨子案

上記の課題の中で、水産土木分野と水産水域環境分野での解決策の骨子案を作る。

先ず、水産土木分野としては、①漁業者又は漁協等生産者団体による加工・販売の構築のためのハード分野での技術的解決策。

水産水域環境分野では、③未利用水産資源を活用した新事業の創出への技術的解決策の骨子案を作成する。

漁業者又は漁協等生産者団体による加工・販売体制の構築

現 状	課 題	解 決 策
<p>スーパー・マーケット等大型量販店のシェアが拡大→</p> <p>・少量多品種を特徴とする国内漁業生産との間にミスマッチが生じている。</p> <p>・市場ニーズの変化についていけず収益の悪化が進展し、経営体の急激な減少が続いている。</p> <p>→収益の確保が漁業継続の鍵を握っている。</p>	<p>課題: 収益の向上</p> <p>問題点: 生産者の価格形成力の強化が必要。</p> <p>ボトルネック→市場ニーズに対応したロットの確保ができない。</p> <p>ボトルネック→生産物の付加価値向上策のなさ。</p> <p>ボトルネック→バイヤーとのマッチング機会が少ない。</p>	<p>方向性: ニーズに対応したロットの確保。</p> <p>具体策: 効率的な集出荷体制の構築。→生産から加工、流通の一貫した供給システム</p> <p>方向性: 安全安心ニーズを捉えた付加価値向上策。</p> <p>具体策: 高度な衛生管理による安全安心ニーズに対応した付加価値向上策。</p> <p>方向性: マッチング対策</p> <p>具体策: 自治体による、農林漁業者等と現地需要者(輸入業者、卸売業者、小売業者等)とのマッチング(商談活動)の場の設定支援。</p>

未利用水産資源を活用した新事業の創出

現 状	課 題	解 決 策
<p>世界的なエネルギー事情の逼迫→</p> <p>・再生可能エネルギーへの関心が高まっている。</p> <p>・漁業・漁村地域はバイオマス資源の宝庫。しかし近年は資源が減少傾向にある。</p> <p>→バイオマスの活用が新たな産業創出へ。</p>	<p>課題: 藻類のバイオマスへの活用</p> <p>問題点: 陸域からの環境負荷の流入による藻類生産力の低下。</p> <p>ボトルネック→陸域から海洋に至る自然浄化能力の低下。</p>	<p>方向性: 陸域から海域までの水循環系の機能向上</p> <p>具体策: 森・川・海の連携による浄化対策</p>